
或る女の子の夢

海貴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

或る女の子の夢

【Nコード】

N0880K

【作者名】

海貴

【あらすじ】

短い物語です。

繊細な女の子のお話し。

ついにそのときがくる

私が幼い頃
一番恐れていたものは
「死」だ。

特に私の愛する
おばあちゃんの
死。

毎晩毎晩
しくしく泣いては

おばあちゃんが死んだらどうしよう

死んだらどこにいくのだろう

気持ちはどこへ行ってしまふのだろうか。

無に帰るのか。

何もなかったみたいに

何も感じなかった世界へ行ってしまうのだろうか。

毎晩こんなことが頭を巡り

私は宇宙の果てまで意識を運ぶ。

果てにあるものは

「無」であり、

真っ白な世界に
行きつくのだと

子どもながらに思った。

幼い私は、

ある日夢を見た。

仲のいい

いところが亡くなって

幽霊として自分の前に現れる夢。

当然いところは死んでもいないし
夢ながらの話である。

1つ上のいとは
幽霊になって
私に言うのだ。

「死んでしまうことは怖くないよ」

この夢の一言で、私は毎晩の悲しみから解放された。

私が死ぬのは恐くない。

でもやっぱり、おばあちゃんが死ぬのは悲しい。

それから何年たっただろうか。

10年は優に過ぎただろう。

21歳になった。

相変わらず、たまにおばあちゃんが死んだらどうしようと涙を流す。

それほど私はおばあちゃんが好きなのだ。

そして今、

おばあちゃんの愛する

私のおじいちゃんの

命がつきようとする。

おじいちゃんも大好き。

おじいちゃんが亡くなったら
おばあちゃんが悲しんでしまう。

ずっとずっと前から

「死」

が来ることは分かっていた。

ついに私から
大切な人がいなくなるのだ。

私はいつものように

いつもよりも現実身を持って

人を想って泣くのである。

お願い。

お願い。

(後書き)

文章が物語になっていることを願って。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0880k/>

或る女の子の夢

2011年10月6日19時24分発行